一中・3年
斉藤洋樹さん

北中・3年
難波久美子さん

庄瀬中学校校長
鈴木邦寿先生

新飯田中・3年
川勝敬一さん

庄瀬中・3年
藤井美怜さん

臼井中・3年
原　若菜さん

一中・3年
水越亮佑さん

平和の尊さを学んでもらおうと市が行っている非核平和研修。第5回目の今年は市内の中学生9人が8月5日から7日までの3日間、広島などで研修してきました。中学生たちは広島平和祈念式典に参列したほか、平和記念資料館などを見学。広島で一体どんなことを学んできたのか。各校代表の5人の感想をご紹介します。

新飯田中・3年
山田佳代子さん

市内中学生広島非核平和研修レポート

'96 夏 ―― 私たちの見たヒロシマ

北中・3年
小野塚　涼さん

一中・3年
平山雅代さん

大役を終えて

新飯田中学校三年
川勝敬一

僕はこの研修で「本当の平和」とはどういうことか、自分なりに答を見つけて帰ってくるという目的を持って参加しました。

まず最初に、式典の行われる平和公園を見学しました。公園は緑がきれいで感動し、とても五十一年前に原爆が落とされたとは思えませんでした。公園内では、核兵器の原料となるプルトニウムの所持に反対する人々が署名を行っていました。それを見て「同じ日本人なのに、自分は核問題に全くと言っていいほど無関心なんだ」と思いました。その後、記念資料館を見学しました。まず最初に目に入ったのは、被爆直前の市街地と被爆直後の市街地の模型の展示です。きれいな町並みを一瞬にして廃墟にしてしまう原爆の破壊力に、正直恐怖を感じました。原爆の模型は思ったよりも小さく、長さは三メートルで、この爆弾一つで数十万人の人々が死んでしまったのかと思うと恐ろしくなりました。そして、核兵器と人間は共存できないと再認識しました。

六日の式典では、原爆が投下された時刻の八時十五分に一分間の黙とうをしました。なぜかその時間が長く感じられました。この日の午後、原爆ドームの見学をしました。模型も見ましたが、実物はやはり当時の様子を物語っているような感じがしました。

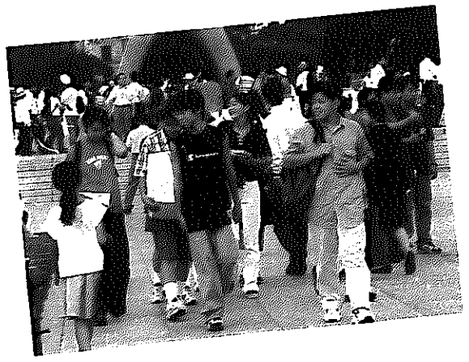
今回学んだ「平和」について、もっと考え、知識を増やすことが大事だと思いました。今後も世界の出来事に目を配れるようになりたいです。大役を終えた今、自分が一歩成長した気がしました。

アオギリの奇跡

庄瀬中学校三年
藤井美怜

私は3日間の研修で、広島が原爆が投下された当時から現在へと短い間で生まれ変わった理由を見つけることが課題でした。

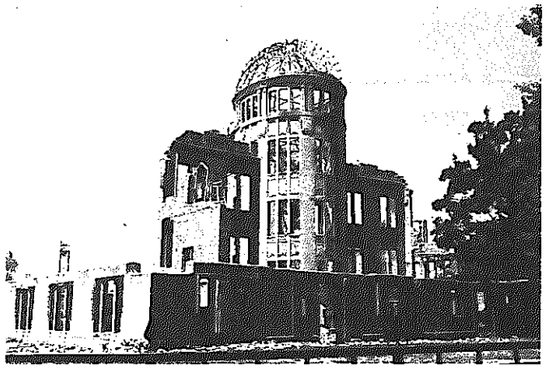
広島の最初の印象は、大きな街ということでした。そこからは、かつて原爆が投下されたことは想像できませんでした。着いてすぐに、平和公園を訪れました。全校生徒の思いがこもっている千羽鶴を奉納しました。奉納されている鶴の数に圧倒され、たくさんの人々が平和を願っていることに感激しました。その後、平和記念資料館を見学しました。その中でショックだったのは、被爆者の皮膚と爪が展示されていたことです。それらは中学生のものでした。私と同じくらいの年齢なのに。一つの原爆がたくさんの命を奪ったことが分かりました。



私は資料館で答えを導き出すかぎを見つけました。それはアオギリの木です。原爆が投下された後「草木は半世紀以上経たないと生えない」と言われ、草木はすべて死んでいたはずでしたが、アオギリは生きていて、小さな芽を出したのです。それを見た人はきっと勇気がわいてきたのではないでしょうか。小さな芽がたくさんの命を救った。そして救われた命が今の広島をつくったのだと思います。

6日。早起きして式典に参加しました。黙とうの時には一斉に静まり返り、セミの声しか聞こえませんでした。私はあの大勢の参列者の中で、背筋をぴんと伸ばしてずっと前を見つめていたおじいさんの涙を見ました。意外でしたが、研修に来なければ見つけられない大事なものだという気がしました。

まだ、全世界は平和ではありません。あの惨劇を繰り返さないために広島は叫び続けています。未来まで伝えていく必要があるからです。広島を一度でいいから見てください。私もまたいつか見に行きたいと思います。



祈念式典に参加して

第一中学校三年
斉藤洋樹

初日の資料館では、廃墟と化した街を上空から写した写真や焼け残った衣服や本などが展示されてあり、目を覆うようなものばかりでした。特に体中にやけどを負った写真は印象深く、原爆の恐ろしさを感じた気がします。今まで、僕自身は原爆に対する知識はほとんどなく、戦争や原爆の話題が出るたびに「そこまで心配しなくても」と思っていたのです。しかし、資料館で戦争が起こった裏側などを知ることで、単に頭の中で「戦争なんて起きない」と思っているだけではいけないと分かりました。正しい知識を持ち、戦争はあってはいけないこと、二度と原爆の使用は許されないということを理解し、後世に伝えなければならないということだと思います。

二日目、式典では参列者の数に驚かされました。式典で「唯一、世界で原爆を使用された国として、非原爆を訴えなければいけない」という言葉を聞いたとき、「私たちが先頭になって世界に非原爆を訴えなければいけないのだ」と、あらためて思いました。

広島から帰ってしばらくして、偶然、戦争についてのテレビ番組を見ました。その内容はおじいさんが2人の孫に戦争のことを話しているものでした。小学生の孫は「私と同じくらいの子が死んでいたなんて知らなかった。とてもかわいそうだった」と涙を流していました。この心から「かわいそう」と思える心が大切なのだと思います。僕自身、被爆者の大勢の人たちに対して涙を流すことはできませんが、「かわいそう」と思えることは大事だと思いました。

戦争での殺し合いなどは人を人と思わない行為です。これらは僕たち中学生の身近な「いじめ」に似ていると感じました。戦争といじめは違いますが「人を人と思わない」ところが似ているのです。今、いじめが大変問題になっていますが、そういう意味でも広島派遣は勉強になる素晴らしい経験でした。

研修に参加して

臼井中学校三年
原若菜

八月五日、学校のみんなからの大切な千羽鶴を手に広島へと向かった。着いてさっそく、記念公園へ行った。そこには広島に来たという実感をわかせる建物があった。そう、それは原爆ドームだ。それまで少し修学旅行気分だった私をはっとさせ、さらに今までにない気持ちをわきたたせるものでもあった。本当に五十一年前、広島に原子爆弾が落とされてすべてを焼き尽くしてしまったなんて。唯一そのまま残っている原爆ドームは私にいろいろなことを感じさせた。その後、記念資料館に入った。館内の資料は日本語以外にも多くの国の言葉で訳されていた。きっと世界中の一人でも多くの人にもう二度とこんな恐ろしいことを繰り返してはならないということを伝えたかったに違いない。資料を眺めているうちに、目を背けたくなるようなところがたくさんあった。八時十五分で止まったままの時計。そして被爆した人の写真。今さらどうにもできないけれど、すごく悲しい事実だとさらに感じた。

八月六日、朝早いうちに大勢の人が平和記念公園に集まった。行く途中、花をもらって供えた。そして安らかに眠ってくださいと手を合わせた。八時十五分、すべての人が立って黙とうした。その後、平和宣言などを聞きながら私たちのこれからの課題となるだろうということを幾つか考えた。それはもう二度と五十一年前のような悲劇を繰り返さないこと。世界中の人にそのことを知ってもらい、世界のすべての国が戦争を放棄して、平和に暮らせるように働き掛けること。そのためにあの恐ろしい核兵器をこの地球上から消し去ること。「安らかに眠ってください。過ちは二度と繰り返しませんから」石碑に刻まれているこの言葉。地球上が戦争で亡くなった人々にこう誓える日はいつ来るのだろう。

祈念式典に参加して

北中学校三年
難波久美子

八月六日、私たちは平和祈念式典に参加しました。広島市長の平和宣言の後、子供代表が「世界の平和のために勇気を持ち、強く優しく生きていく」と平和への誓いを述べました。とても素晴らしいことだと思います。これからも被爆者の方々に被爆の実状を語り継いでもらいたいです。私も式典に参加してきたことを友達などに教えていきたいと思います。

式典の前日には、千羽鶴を慰霊碑の前に置き、みんなで手を合わせてきました。その後、原爆資料館へ行き、売店で原爆の悲惨さが書かれている本を買いました。さっそく読んでみると、全身の皮膚が垂れ下がった少女、放射能の影響で亡くなった兵士の写真などが載せられていました。この本は学校に持って行って全校の人に見てもらい、戦争の残酷さ、無惨さを知ってもらおうと考えています。

研修では、ほかの学校の代表と交流できてとても楽しかったです。こんなに良い経験をしたみんなとは、これからもずっと交流を続けていきたいです。私たちの先輩たちは今でも交流を続けているそうです。

今回、この式典に参加して、戦争のことや原爆が落とされたときのことなど数え切れないほどのことを学んできました。これからは、学んできたことを無駄にしないよう次につないでいきたいです。本当に良い経験ができました。